



山口正栄記念奨学財団記念誌



雄大な自然が根付く北海道 より豊かな未来へ

そんな願いのもとに当財団は
国家及び社会に有為な人材の育成に必要な事業を行い
ひいては本道の発展に寄与することを目的として
道内の情報系・理工系の大学院・大学・専修学校の学生に対して
奨学金の給与事業を行っています

はじめに

山口正栄記念奨学財団も今年で、設立25周年を迎えることとなりました。これも皆様方のひとかたならぬご支援の賜物と、心より感謝いたしております。また25年という節目の年に、こうして山口正栄記念奨学財団の記念誌を発行できましたこと、大変感慨深く思っております。

故山口正栄は、特に「青少年が学問に対して情熱を持って取り組むことができるようにするためには何をすべきか」を絶えず考え、俗称・山口塾を長年に亘ってボランティアで運営し、今日医学界をはじめ多くの分野で活躍している多様で優秀な人材を輩出してまいりました。

さらに教育への情熱は衰えることなく、組織的に青少年教育のあり方を模索すべく、北海道大学退官後、学校法人桑園学園の理事長に就任し、いかにして向学心に燃える若者を育成するかにその生涯をささげました。この間、山口正栄は、資金面で苦労をしているにもかかわらず、なお学問への志ある学生たちも多々あることを改めて認識し、このような学生たちを資金面でも援助すべく、奨学財団を設立するために、毎月一定額を預金し奨学財団の財源となるように準備をしてまいりました。

しかし、昭和58年4月、残念ながら志半ばにして山口正栄が他界したため、

その遺志を実現すべく皆様のご賛同、ご支援の下、「山口正栄記念奨学財団」が設立されました。当財団の理事長として、私はかねてより「ソフトランド北海道」の実現、つまり情報産業を北海道の基幹産業の一つにしたいとの夢を持ってまいりました。そのために札幌を活動基盤とするいくつかのソフト事業を立ち上げ経営してまいりました。翻って見ますと、北海道には高度成長とともに流通が高まるなか北海道価格の問題があり、このことは庶民の生活はもとより北海道の産業そのものにも大きなリスクとなっていました。

しかしネットワークなどの情報インフラが整い始め、情報産業は目覚しい成長を見ています。地球温暖化を含め環境問題が世界的に大きなテーマになっている今こそ、環境にやさしい産業、世界を市場とする情報サービス産業は北海道に欠かせないものとなるでしょう。そのためにはIT人材育成こそがキーとなります。改めて、優秀な人材を育成し、優秀な情報産業を育てていくことがこれからのです。今後ともご指導、ご鞭撻賜りますようお願い申し上げます。

「ソフトランド北海道」実現により、北海道がより豊かな未来を迎えるためにも、関係各位のご協力を仰ぎながら、向学心あふれる若者を支援していく決意であります。今後ともご指導、ご鞭撻賜りますようお願い申し上げます。

理事長 山口 正雄



● オンネトー 雄阿寒岳 雄阿寒岳



YMMMF Index

- 6 山口正栄記念奨学財団のあゆみ
- 7 沿革
- 8 山口正栄経歴
- 10 歴代役員
- 12 奨学生採用実績
- 13 歴代寄付者
- 15 山口正栄の思い出
- 17 高松 茂行
- 19 大平 武司
- 22 上埜 光紀
- 25 旧一年D組座談会
- 38 黒川 一郎
- 43 藤田 伊久雄
- 45 松本 篤二
- 53 山口正栄記念奨学財団のこれから
- 54 奥野 拓
- 58 嘉数 侑昇



● 水沢ダム 十勝岳連峰（美瑛町）



沿革

- 名称** 財団法人 山口正栄記念奨学財団
- 設立** 昭和59年4月1日
- 主務官庁** 北海道
- 基本財産** 2000万円(昭和59年度)
1億3400万円(平成21年度)
- 目的** 山口正栄の遺志を敬慕し教育愛に燃えた故人の精神を継承し、国家及び社会に有為な人材の育成に必要な事業を行い、本道の発展に寄与することを目的とする。
- 事業** 北海道内の理工系及び情報系の大学院生(修士)、大学生並びに情報処理課程の専修学校生への奨学金給与。
昭和63年12月 特定公益増進法人認可



山口正栄

国際交流など
一財團を認可

北海道新聞 昭和59年3月31日

山口正栄記念奨学財団は、昨年
設立した学校法人善學園・山口
正栄記念の遺志を継ぎ、日本未
人が設立代表者として事務局

正栄記念の設立を西岡一
日付で認めたことを決めた。
山口正栄記念奨学財団は、昨年
設立した学校法人善學園・山口
正栄記念の遺志を継ぎ、日本未
人が設立代表者として事務局

北海道新聞 昭和59年3月31日

山口正栄経歴

- 大正2年9月5日 北海道岩見沢市にて、父平太郎母サクの長男として出生
- 昭和9年3月 北海道札幌師範学校（現北海道教育大学札幌分校）本科第二部卒業
- 昭和9年4月 岩見沢尋常高等小学校勤務
独学にて中等教員検定試験の合格をめざし日夜勉学に励む
- 昭和16年3月1日 文部省師範学校中学校高等女学校教員資格（数学科）合格
- 昭和16年4月1日 母校岩見沢中学校（現岩見沢東高等学校）勤務
- 昭和17年4月1日 札幌第一中学校（現札幌南高等学校）勤務
大学での研究を志し、高等学校修了検定試験の合格を目指し再度独学を始める
- 昭和17年9月 旧制高等学校修了検定試験（現在の大学教養課程修了に同じ）合格
- 昭和17年9月 北海道帝国大学理学部入学
- 昭和20年9月25日 北海道大学理学部数学科卒業
- 昭和20年10月31日 北海道大学文部教官助手
北海道大学応用電気研究所数学部門勤務
- 昭和24年 北海道大学理学部数学科助教授
- 昭和27年-37年 NHKラジオ高等学校講座（数学）の講師を担当
- 昭和52年3月31日 北海道大学教授（理学博士）を定年退官
- 昭和52年4月1日 学校法人桑園学園理事就任
札幌ソフトウェア専門学校校長兼任
- 昭和53年4月25日 学校法人桑園学園理事長就任
- 昭和58年春 叙勳 熊三等瑞宝章



主な著書

代数学と幾何学(共著)	昭和34年	学術図書出版社
微分積分学(共著)	昭和35年	学術図書出版社
代数学幾何学コンパニオン(共著)	昭和38年	学術図書出版社
微分学コンパニオン(共著)	昭和40年	学術図書出版社
行列・群・ベクトル(共著)	昭和48年	学術図書出版社
数学Ⅲの基礎	昭和52年	学術図書出版社
数学Ⅰ・ⅡBの基礎	昭和52年	学術図書出版社

主な論文

1. On a J.v.Neumann's Theorem.
Proceedings of the Japan Academy, Vol.41, No.8, 699-701 (1965)
2. Calculus in Ranked Vector Spaces. I .
Proceedings of the Japan Academy, Vol.44, No.4, 207-212 (1968)
3. Calculus in Ranked Vector Spaces. II .
Proceedings of the Japan Academy, Vol.44, No.4, 213-218 (1968)
4. Calculus in Ranked Vector Spaces. III .
Proceedings of the Japan Academy, Vol.44, N.05, 307-311 (1968)
5. Calculus in Ranked Vector Spaces. IV .
Proceedings of the Japan Academy, Vol.44, No.5, 312-317 (1968)
6. Calculus in Ranked Vector Spaces. V .
Proceedings of the Japan Academy, Vol.44, No.6, 424-429 (1968)
7. Calculus in Ranked Vector Spaces. VI .
Proceedings of the Japan Academy, Vol.44, No.6, 430-433 (1968)
8. On a Ranked Vector Space.
Proceedings of the Japan Academy, Vol.46, No.5, 422-426 (1970)
9. On ranked vector spaces (1975)

注・Proceedings of the Japan Academy=学士院紀要

歴代役員 (五十音順)

●理事長

(初代)

山口 コウ 山口正栄 妻 S.59.4/27 ~ H.12 年度

(第2代)

山口 正雄 (株)ジャパンテクニカルソフトウェア 代表取締役会長 H.13 年度~

●専務理事

(初代)

山口 正雄 (株)ジャパンテクニカルソフトウェア 代表取締役会長 S.59.4/27 ~ H.12 年度

(第2代)

谷津 秀久 (株)ジャパンテクニカルソフトウェア 代表取締役社長 H.18.12/1 ~

●理事

有江 幹男 北海道大学 元学長

H.5.10/1 ~

大賀 皓 北海道大学 元獣医学部長

S.59.4/27 ~ H.7 年度

大平 武司 東海大学 名誉教授

S.62.4/1 ~

加清 準 (株)ジャパンテクニカルソフトウェア 元代表取締役会長

S.59.4/27 ~ H.9 年度

川田 米蔵 北海道銀行 元常務取締役

S.59.4/27 ~ S.60 年度

高杉 直幹 学校法人桑園学園 元理事

S.59.4/27 ~ H.4 年度

高松 茂行 (株)日本精工 元顧問

H.12.6/1 ~

松本 篤二 (株)リクルート 元 ROD トレーナー

H.9.6/1 ~

谷津 秀久 (株)ジャパンテクニカルソフトウェア 代表取締役社長

H.17.6/1 ~

山口 コウ 山口正栄 妻

S.59.4/27 ~ H.16 年度

山口 正雄 (株)ジャパンテクニカルソフトウェア 代表取締役会長

S.59.4/27 ~

●監事

旗本 道男 公認会計士

S.59.4/27 ~

岩井 淳佳 弁護士

S.59.4/27 ~

●評議員

赤塚 茂昭 (株)赤塚商店 元代表取締役社長

S.59.4/27 ~ H.1 年度

上埜 光紀 札幌市医師会 顧問・前会長

S.59.4/27 ~

大平 武司 東海大学 名誉教授

S.59.4/27 ~ S.62.3/31

奥野 拓 公立はこだて未来大学 准教授 (元奨学生)

H.11.6/1 ~

嘉数 侑昇 北海道情報大学 前学長

H.17.6/1 ~

河口 至商 北海道大学 名誉教授

S.59.4/27 ~ H.17 年度

菊地 千之	室蘭工業大学 名誉教授	S.62.6/1 ~
久保 洋	室蘭工業大学 名誉教授	H.19.6/1 ~
越 昭三	北海道大学 元理学部長	S.59.4/27 ~ H.15 年度
小島 志郎	(株)希電工 元代表取締役社長	S.60.4/1 ~ H.10 年度
駒木根洋一	大閑化学工業(株) 技術顧問	S.59.4/27 ~
篠原 浩徳	札幌ソフトウェア専門学校 元校長	H.3.6/1 ~ H.10 年度
鳴村 真人	北海道千歳高校 元校長	H.13.6/1 ~
閑口 恭毅	北海道大学 名誉教授	H.19.6/1 ~
中村 尚孝	中村医院 元院長	S.59.4.27 ~ H.17 年度
辻 哲夫	学校法人桑園学園 理事長	H.13.6/1 ~
福 檻雄	(株)ヨコビ 元会長	S.59.4/27 ~ H.19 年度
藤田伊久雄	札幌百合の会病院 副院長	S.59.4/27 ~
松本 篤二	(株)リクルート 元 ROD トレーナー	S.59.4/27 ~ H.9.5/31
三浦 良一	北海道大学 名誉教授	S.59.4/27 ~ H.11 年度
谷津 秀久	(株)ジャパンテクニカルソフトウェア 代表取締役社長	H.11.6/1 ~ H.17.5/31
山口 正貴	(株)ジャパンテクニカルソフトウェア 常務取締役	H.17.6/1 ~
米山 幹雄	(株)ジェイ・ティ・エスエンジニアリング 代表取締役社長	H.1.6/1 ~ H.10 年度

●評議員選定委員

青柳 静治	札幌家庭裁判所 元家事調停委員	H.21.5 ~
田辺 達三	日本外科学会 名誉会長	H.21.5 ~

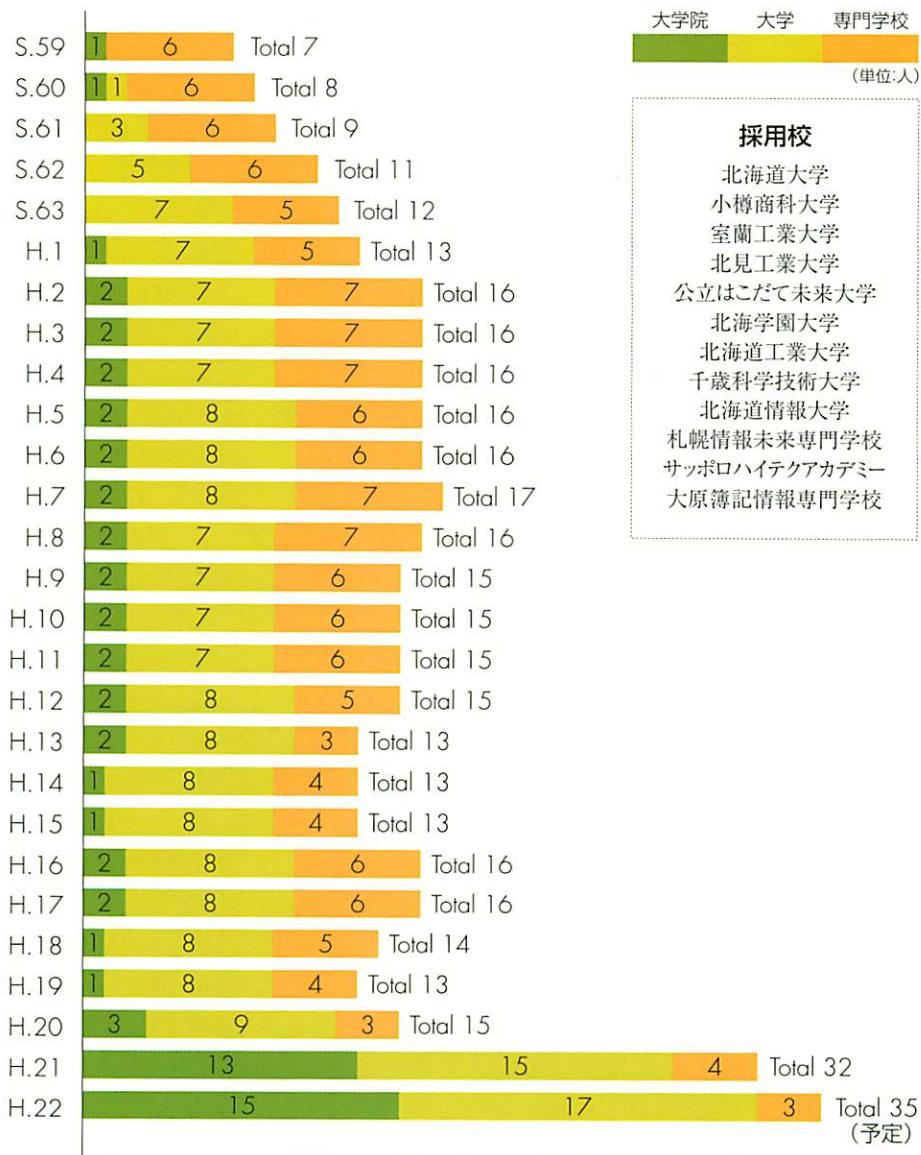
●選考委員長

(初代)		
三浦 良一	北海道大学 名誉教授	S.59.4/27 ~ H.12 年度
(第2代)		
菊地 千之	室蘭工業大学 名誉教授	H.13 年度~

●選考委員

大平 武司	東海大学 名誉教授	S.59.4/27 ~ S.62.3/31
奥野 拓	公立はこだて未来大学 准教授 (元奨学生)	H.17.6/1 ~
嘉数 侑昇	北海道情報大学 前学長	H.17.6/1 ~
河口 至商	北海道大学 名誉教授	S.59.4/27 ~ H.17 年度
菊地 千之	室蘭工業大学 名誉教授	S.62.6/1 ~
越 昭三	北海道大学 元理学部長	S.59.4/27 ~ H.15 年度
篠原 浩徳	札幌ソフトウェア専門学校 元校長	H.3.6/1 ~ H.8 年度
鳴村 真人	北海道千歳高校 元校長	H.13.6/1 ~
閑口 恭毅	北海道大学 名誉教授	H.19.6/1 ~
辻 哲夫	学校法人桑園学園 理事長	H.13.6/1 ~ H.14 年度

奨学生採用実績



大学院 大学 専門学校
(単位:人)

採用校

- 北海道大学
- 小樽商科大学
- 室蘭工業大学
- 北見工業大学
- 公立はこだて未来大学
- 北海学園大学
- 北海道工業大学
- 千歳科学技術大学
- 北海道情報大学
- 札幌情報未来専門学校
- サッポロハイテクアカデミー
- 大原簿記情報専門学校

歴代寄付者（五十音順）

岩井 淳佳	辻 哲夫	(株)エイチ・エム・シー
上埜 光紀	中曾 幸子	(株)栄美通信札幌営業所
大平 武司	中野 静子	(株)エキスパートアレー
奥野 拓(元奨学生)	中家 正次	(株)エスエスシー
嘉数 侑昇	旗本 道男	岡本印刷(株)
加清 準	福 楠雄	(株)鷗プランニング
神家満由紀	藤田 伊久雄	(株)北日本コクヨ
龟田 三紀子	前田 晴子	(株)共同案内企画
川合 和子	松尾 祐邦	(株)広報社
川合 則幸	松本 篤二	コーヨー電気設備(株)
菊地 千之	三浦 勇七	(株)ジェイ・ティ・エス・エンジニアリング
久保 洋	三浦 陽一	(株)ジェイテックジャパン
小池 淳	三栗 毅	(株)ジャパンテクニカルソフトウェア
越 昭三	谷津 秀久	(株)情報科学センター
小島 志郎	山口 コウ	セイコーマートすずき
小林 一裕	山口 孝平	学校法人桑園学園
駒木根 洋一	山口 チエ	学校法人桑園学園部長親睦会
小松 姫呂美	山口 正雄	学校法人桑園学園(山口正栄)
小湊 裕	山口 正貴	中西印刷(株)
篠原 浩徳	山口 有三	(株)日理
嶋村 真人	米原 秀彦	(株)日本商工振興会
鈴木 正雄	米原 裕雄	(株)希電工
関口 恭毅	米山 幹雄	日立アイ・エヌ・エス・ソフトウェア(株)
高野 正昭	若林 高明(元奨学生)	(株)日立製作所北海道支社
高松 茂行		福原印刷
		北開工営(株)
		(株)北方電業
		(株)ワイズクリエーション

個人合計 47,243,417円

企業合計 162,811,469円

総合計 210,054,886円

(昭和59年～平成21年7月現在)



屈斜路湖 美幌峠より





YMMSE

2

山口正栄の思い出



● 哲学の木 (熊本県)



山口先生の思い出

(株)日本精工 元顧問

高松 茂行

山口先生の最初の印象は、丸いめがね、角帽、黒いマントを着た丸顔の優しそうな大きな人ということです。これはおそらく、小学校低学年ころの記憶です。先生が、毎朝、早朝に塾を開いていることを父が聞きつけて、小生の参加をお願いしてくれたのは、小生が小学校4年の時（1947年）でした。朝まだ暗い300m位の雪道を歩いていったこと、最初にいきなり中学の英語の教科書Jack and Bettyの授業を何の説明もなしに受けて、書き取りをやらされて何もできずお手上げだったことを覚えています。

そのころのお住まいは札幌の下町の典型的な二軒長屋で、お茶の間の卓袱台の脇に大きな緑色の黒板があり、寺子屋といった感じでした。メンバーは現理事長でご長男の正雄さん以外

は、ほとんどが上級生、4、5人でメンバーは結構入れ代わっていました。

目的は中学校の英語と数学の授業の補習だったのでしょうか。英語の暗記の宿題などでは、正雄さんがいつも叱られ役だったようです。他の人はほとんど叱られなかっただように思います。最初のころの思い出の一つは、幾何の問題が最初にできて、うれしかったこと。小生は褒められ役だったかもしれません。それから、高校3年まで、基本的には毎日、いろんなことを教わりました。受験科目全て、といつていいでしょうか。学生の正月は3月だ、とか、小人閑居して不善を為す、とか言って、正月もなしに、教えてくれました。

そんなわけで、先生の教壇に立つ姿は拝見したことはありませんが、8年間、何となく先生に引っ張られて、夢

中で楽しく勉強をして、何となく東大理一を受けて、入ってしまいました。最後のころ、高木貞二の解析概論を教わって、これが数学というものか、と感激しました。おかげで、大学に入ったときの数学の授業が楽だったことを覚えています。担当の先生が初めての講義らしく、クラスの人達が分からないと騒ぎ出しましたが、こちらはニヤニヤしていました。

山口先生は、とにかくじっくり考える方で、入学後、囲碁を覚えて、小生がまだ2級くらいのころ、当時、北海道のアマのトップクラスの実力の先生と時々、打っていただきましたが、まともに考えられないということで、4目しか、置かせてくれません。それで1局2時間以上の時間をかけて打ってくれます。考える碁の楽しさを教えてくれました。町の五目並べを覚えてきて、家で考えて、解いて、賞品をせしめるのも得意だったようです。何回も商品をせしめていると、そのうちに一手だけで、相

手が降参をしたなどと、自慢をしていました。その分野でも有名人だったのでしょうか。

先生、正雄さん、小生の父と小生の4人での家族マージャンも入学後の帰省の楽しみの一つでした。先生は、大きな手を目指さない堅実なマージャンでしたが、これは、試合慣れのした若手が一枚上だったでしょうか。

先生がProceedings of the Japan Academy (日本学士院紀要) に発表された一連の博士論文、Calculus in Ranked Vector Spaces (階位あるベクトル空間について) の別刷りも頂きました。先生は微分の拡張と説明してくれました。小生は現在、電気関係論文の技術翻訳を始めて10年になりますが、今見ても中身には歯が立ちません。そんなわけで先生の偉さが、本当に分かっているかというと自信がありませんが、今の自分があるのは先生のお陰と感謝しています。◆

山口先生の思い出

東海大学 名誉教授

大平 武司

昭和17年早春の未だ残雪のころ、

入学試験を受けに一中に行った。その前年の12月8日に、日本はハワイ真珠湾攻撃によって太平洋戦争に突入している。

中学校の入学試験は、その数年前から筆記試験から口頭試験になった。口頭試験は1人ずつ部屋に入れて質問するのだから、順番が後のものは控えの教室で長時間待たされることになる。何しろ、小学校6年生といえばやんちゃ盛りで、しゃべったり笑ったりしているうちにだんだんとエスカレートし、悪ふざけや口喧嘩になり、教室中がやや騒然となつた。そこへオーバーを着た丸顔に大きな黒縁の眼鏡をかけた先生が静かに入ってきて「これこれ、君たち静かにしなさい」と穏やかに注意した。この先生が入学後に1年D組を担任し、生徒たちに薰陶を与えた山口正栄先

生であった。

先生はそれまで岩見沢で尋常高等小学校の訓導であったが、当時非常に難関であった中学校教員検定試験を独学で見事に一回で合格し、4月から札幌一中の教諭に迎えられることが内定していたので、入学試験のお手伝いに来ておられたということを後から聞いた。どこの学校でもそうだが、入試のような行事の際は、新任の先生の仕事は大抵、受付や警備だから、多分、山口先生も寒い廊下を見廻って歩く役で、オーバーを着ておられたのだろう。

さて入学式後、先生は「家がまだ岩見沢で、汽車で毎日札幌に通うのは大変なので、札幌に家を探している。もし心当たりがあれば教えてほしい」と言わされた。丁度小生の家の借家が空いていたので、親爺に話して翌日申し出たと

ころ、早速見に来られた。豊平川の堤防を先生とずっと歩いて行ったことを憶えている。とにかく、家はこれでよいということになり、間もなく引越してこられた。奥様と長男、長女の四人家族であった。長男正雄氏（桑園学園代表理事としてコンピューター関係の仕事で活躍され、その後、株式会社ジャパンテクニカルソフトウェアを設立し、現在は会長を務める）は相当な腕白坊主であった。話の序に桑園学園は、山口先生が北大教授を定年退官後にそこの理事長をされていた。先生が亡くなられた直後に、先生の遺言によって、山口正栄記念奨学財団が学園に創設され、道内の大学、専門学校の多くの学生に奨学金を与えている。多額の基金は先生個人が出されたものである。

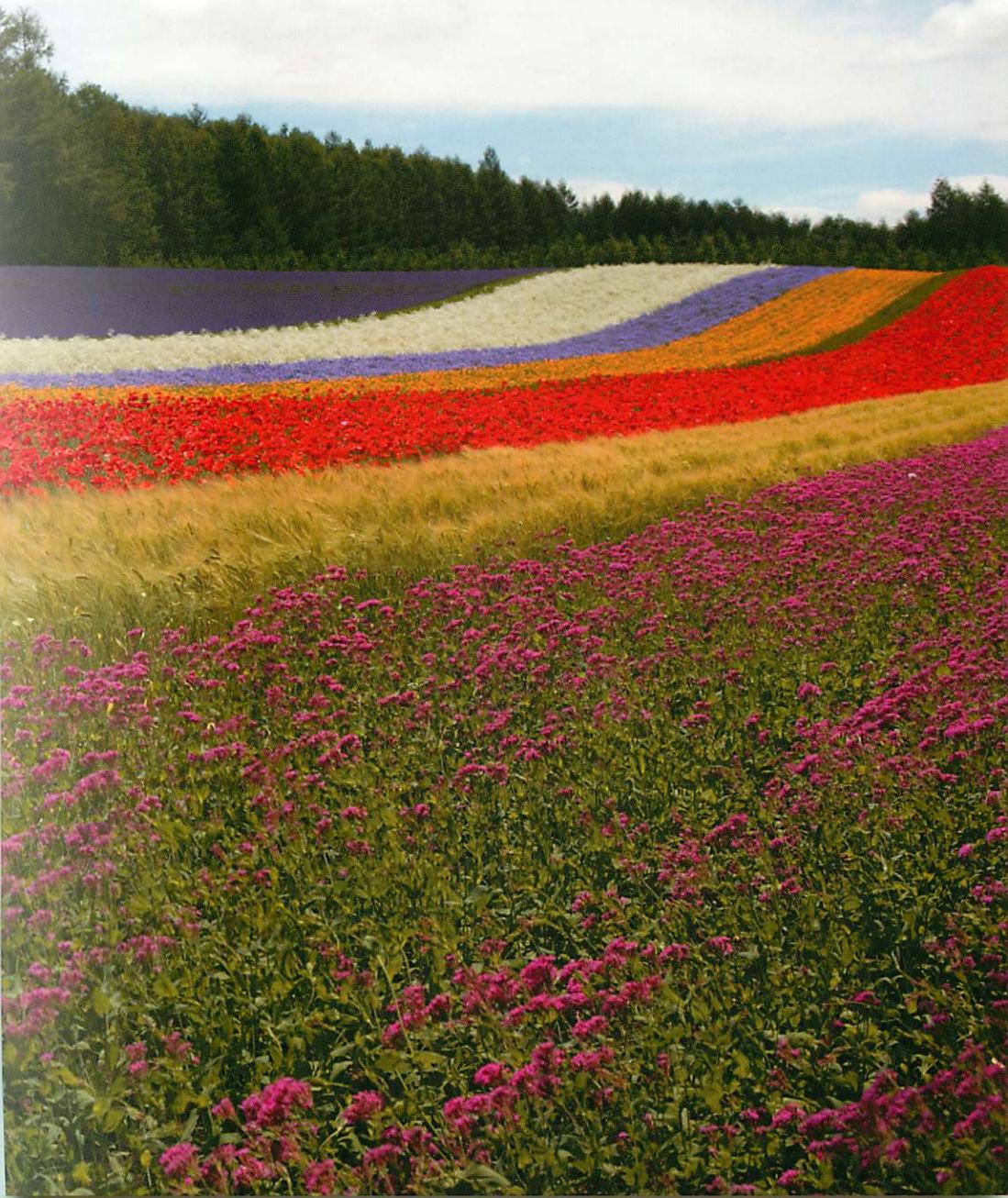
さて、話を元に戻そう。先生が我が家から近いから、お邪魔することが多かつたが、何時伺っても勉強しておられ、勉強が嫌いで遊ぶことが好きな俗物の吾輩にとっては、驚異的であった。とて

も真似の出来ることではなかった。先生は誰でも知っているように、温和な人柄だから、学校でも大声で生徒を叱ったことは無かったが、生徒は極めて従順であった。なんといっても数学の教え方は分かり易く、しかも独特で魅力があった上に、生徒に分からせようとする熱意は大変なもので、このような素晴らしい先生は、私の四十年に亘る教師生活でも見当たらない。

山口先生の提唱で始められた毎朝の復習テストのことも今は懐かしく思い出されるが、お陰でD組の成績が他の組を断然圧して良好であったことは周知の通りである。向学心の強い先生は、突然、一学期を以て退職され、北大理学部数学科に学士入学されることになった。僅か一学期という短い期間で、その時はとても残念に思えた。一学期の最後は、藻岩山登山であった。麓で解散の際、我々が整列をして先生に敬礼をした時、先生が我々に向かって返礼していた光景を時々思い出す。◆



● 彩りの畑 富田ファーム (中富良野)



山口正栄先生との出会い

札幌市医師会 顧問・前会長

上埜 光紀

今日の私があるのは二人の先生のお陰である。中学一、二年の担任であった林栄一先生と高校3年間ご指導下さった山口正栄先生である。

私の母は大変教育熱心で、懇意にしている小児科医の奥さんから、山口正栄先生の評判を聞き、直ぐ、高校一年の私をお願いに先生を訪ねたのである。

ご承知の通り、先生の教え方は独特で、高校二年の前半で、三年までの教科書は終わらせるなど、どんどん教科書を進める一方、必ず2、3の問題を宿題に出した。

二年生になって、初めて参加した全学（2、3年生、浪人）の数学の模擬試験で、成績優秀者として、廊下に名前が張り出され、しかも一番上に名前があり、驚きと共に大変自信になった。

爾来卒業まで、先生のご指導のお陰で数学だけは誰にも負けない成績を残せた。また、先生の宿題は、その時の実力の少し上のレベルの絶妙な問題で、解くのに数時間、数日かかることもあり、通学時の電車の中で答えが解り、思わず声が出て、周りの人に訝られたこともあった。

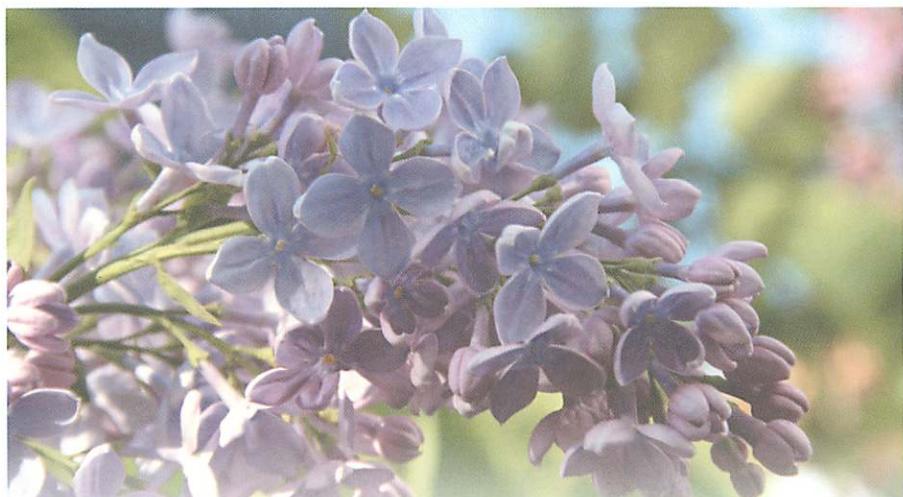
数学以外にも先生からいろいろ教わったが、特に、勉強後の雑談が楽しかった。街角での詰め将棋や詰め碁の武勇伝、中でも詰め五ならべ（？）のお話は印象に強く残っている。なかなか五ならべの答えが解らず、数日通ったある時、商売人がふと漏らした「死に体の3、3？」で解けたと愉快そうに話された笑顔が思い出される。また、株の話もよくされていたが、当時の私は「株は値上がりしなければ儲からない」

と思っていたが、先生から「値下がりする時、儲かるチャンス」だと聞かされたが、直ぐには理解できなかった。

また、先生宅へ早朝休むことなく通い続けることが出来たのは、親友福檜雄君（株式会社ヨコビ前会長）のお陰である。福君とは中学、高校と一緒に、家も近くお互い誘い合って通ったが、寝過ごした時には屋根に登って、部屋の窓を叩いて起こした、起こされた？こ

ともあった。二人で先生宅へは自転車で通っていたが、一条橋から見る日の出の美しさは、今でも思い出される。

大学入学後も、福君が帰省中（慶應経済入学）の時、一緒に先生宅を訪れた。先生との雑談中、いつも奥さんがにこにこしてお茶の接待をしてくれたが、50年も前のことで、どんな話をしていたのか忘れたが、先生と奥さんの笑顔は今でもはっきりと目に浮かぶ。◆



6月になると札幌の街中を一斉に埋め尽くしてしまうライラック。紫やピンクのグラデーション・まつ白い花が、空いっぱいに広がるように咲き誇ります。ライラックはイギリス名で、フランス語ではリラ、日本名はムラサキハシドイといわれ、モクセイ科の落葉小高木です。ヨーロッパの南東部原産で、ヨーロッパでは広く栽培されています。暖地での生育は難しく、日本では東北、北海道等の寒地で栽培されています。日本へは明治中期の1890年アメリカ人のクララスミス女史が札幌にもたらし広がりました。「友情・思い出・・・」という花ことばを持つライラック、札幌では市の木に指定されています。

●ベンケトウ、パンケトウ 双湖台より



旧一年D組座談会

神家満 はじめまして！山口正栄の孫の神家満由紀と申します。よろしくお願ひいたします。皆様ご承知のように、山口正栄を記念して創設されました、山口正栄記念奨学財団も皆様の御支援のおかげでこの度、25周年を迎えることができました。ありがとうございます。

財団を預かる私どもとしては25周年という節目となるこの年に今一度財団の在り方や、財団の意義を考え、今後に向かっての新しい財団の出発点としようではないかとの思いがございます。そのためにいろいろと議論した結果、まずは、25周年の記念の一つとして、これまでの財団の設立当初からの歴史を記録として、記念誌として残そうではないかとの結論にいたりました。

ところで、山口正栄が札幌第一中学校に勤務したのは、わずか4、5ヶ月

の間だったそうですが、その時受け持ったD組の皆様は山口正栄にとって生涯忘れることのできない生徒さん達だと良く伺っておりました。ここにおいで頂きました皆様は、まさにご当人たちですが、若いころの山口正栄がどのような先生だったのか、その人となりを語つていただき、これを記念誌に記録として残すことも、当財団の歴史にとっても非常に意味を持つものだと考えております。そこで本奨学財団の理事でございます松本先生にお願いして山口正栄を語る座談会を持とうと、皆様にご連絡をお願いさせていただいた次第です。松本先生ありがとうございました。

改めまして、私どもの趣旨にご理解いただきまして、本日はご多忙な皆様にお集まりいただきましたこと、感謝申し上げます。

それではまず初めに自己紹介をお願いいたします。

大平 私は大平武司です。まだ家内も生きております（笑）。そろそろあの世に行く準備をしなきゃならない。だいたい皆さん80でしょ、もう。

松本 みんな同じ年だよ。

一同 笑

大平 だから山口先生より10年以上も長く生きてるってことだよね。先生はいくつで亡くなったの？

松本 69歳。

田辺 私は田辺達三です。北大の医学部に進んで、その後、外科医になって先生が病気になるたびに「田辺には言うな」って嫌われていた。

松本 えっ、田辺には必ず世話になれるって言われてたんじゃないの？

田辺 後半はね。でも僕が外科医になったと聞いてね、先生「メスを持つ男は嫌いだ」って。

一同 笑

田辺 でもその後先生が次々と病気

になられてね。「田辺に相談してくれ」って、やっと信頼を得たんだよ。

松本 私が知っている限りでは「病気になつたら田辺だ」って言ってらっしゃったよ。

神家満 私もそう記憶しております。お世話になり、ありがとうございました。では、寺田さんお願ひできますか？

寺田 寺田秀治です。まあ先生には、半年しか直接教えていただけなかつたんだけど、先生が北大の助教授になつてからかな？教養の時に、また、数学を習ってね。

松本 北大の教養の時に習ったの？

寺田 習ったよ。だから昭和24年か、25年のころだね。微分か積分かを習つたんじゃないかな。

久米 私は久米栄一です。一中に入った7月の夏休みに私の父が急に亡くなつたんですね、その時、先生いたく心配してくれて、頭なでられたんじゃないと思うんだけど、「これから大変だろうけど頑張って、歯をくいしばってやれ

よ!」と言われたのを覚えています。それから、北大入ってサラリーマンをやっていたんですが、先生が亡くなった時、ちょうど東京支店長をしていたのでお会いできず・・・早いもので今から数えてみても67年前の話ですね。振り返って考えてみると、先生も29か30くらいでしょ、それで教え子の親父が亡くなつたんだから「これから大変だ!!」ということで、いろいろ声をかけてくれたことが思い出されて、早くお会いできればよかったなど今は後悔が残っております。

神家満 そうだったんですか。大変でしたね。ありがとうございました。では松本先生お願ひいたします。

松本 松本です。私は先生じゃないんだけども、なんとなく、財団の中では先生と呼ばれているんだよね。みんな先生ばっかりだから・・・というわけでみんなには一応、私が山口先生の思い出を語ってもらおうじゃないかと声をかけて集まつてもらった次第なのでよろしく。

神家満 先生ありがとうございます。

それでは桑山さんお願ひいたします。

桑山 桑山隆です。D組の時には久米君の次の出席番号でね、いつも彼の陰にかくれて。そうでしょ?

久米 そうだったつけ?

桑山 そうだよ。それで私は本州にいましたからね、5年ほど前に帰ってきてこっちに骨を埋めるつもりで。だからもうほとんどこっちのことはあまり知らないで、帰ってからDクラスのペンケ会(一年D組のクラス会の名前)に顔を出すようになって・・・ということです。

神家満 皆様ありがとうございます。私は祖父の長男山口正雄の娘になります。私は父似なので、もしかしたら祖父にも似ているかな?と思っていたのですが・・・似てないですか?

田辺 先生は丸い顔してる。

神家満 ええ。おにぎりって言われてたとか?

田辺 だるま。

寺田・久米 おむすびだよ、おむすび。

桑山 ほら、先生の弟さんが一中に

非常勤で来られたでしょう。

松本 弟さんも一中にいらした?

桑山 朝礼で挨拶して・・・で、終わったらもうこむすびって。

寺田 ああ。言ってたね。

久米 いい名前つけるね。

田辺 昭和17年でしょ。

神家満 皆様とはわずか4、5か月のお付き合いだったようですね。

桑山 2学期の10月までね。

松本 そういうことでね、我々と山口先生のかかわりを私からね。我々が札幌一中に入ったのは昭和17年の4月なんですよ。それで一年D組というクラスに入ったんだけども、そのクラス担任をされていたのが山口正栄先生なわけですよ。ところが山口先生は、その3月末に岩見沢から札幌一中に転勤してこられた。その岩見沢の中学校の先生も短期間しかやっておいでになられなくて、あの先生は苦学生中の苦学生ですから、だからとにかく、なんてん

でしょう、あの先生は師範学校しか出ておられないんですよね。それで師範学校を出て小学校の先生になって、小学校の先生をやりながら苦学力行をして、そして中学の教員の免許をおとりになった。昔、高検と言ったと思うんですがね、高等師範学校の卒業検定試験ということだったんだと思うんだけど、それをパスして岩見沢の中学校の先生になり、あれ数か月しか岩見沢のほうはやってないんじゃないかな?と思うんだけど、札幌一中に昭和17年にご移

転になって我々の担



同窓会写真
前列右から二番目が山口正栄

任になったと。

田辺 これ（山口正栄記念奨学財団パンフレット）を見るとね、昭和9年に教育大、ま、師範学校だね。だからかなりその間あるわけ。

久米 師範学校の小学校の先生はね。

松本 で、その間勉強して、16年に高検を取ってらっしゃるわけです。これは我々が御目にかかる1年前ですから。それで岩見沢中学校の先生をやって、そして札幌に来られた。で、札幌に来られて我々の担任をしながら、もう一つ上の大学受験検定試験をパスされるわけだよね。我々そんなこと知らなかつたけれども、一生懸命勉強してた。それで夏に大学の試験を受けて、10月1日かね、北大に入ってしまわれた。だから、我々の担任というのは4、5、6、…9か。

久米 だけでも夏休みがあるからね。

寺田 夏休み終わつたらいなかつたね。

久米 最後がね、藻岩山に登山したでしょ、あれがお別れだよな。

田辺 ああ、そうかい。なるほどね。

神家満 山登りは毎週全員でされていたんですか？

桑山 そう、修練っていう時間があるんですよ。鍛えられてた、歩いてですよ。

久米 それ、毎週行ったかい？

桑山 毎週だよ。水曜日。

田辺 僕ね、その登山の日、遅れそうになって朝飯、食べないで行ったんだ。てっぺんまでは元気よく行つたけど、下り始めたら空腹に耐えかねて、これはぶつ倒れるなと思って、たまたま電車が来たから飛び乗つた。桑山かだれかにね、「おれ空腹かなわんから帰るわ」って、そしたら次の日、だるまさんに言われて、「君はどうして黙つて帰つたんだ」って。

神家満 だるまさんというのは祖父のことですね。

田辺 でも優しく叱られてね。やる気をおこさせる。叱り方が上手いんだよな。

桑山 そう。微笑みながら怒るからね。

久米 そういう点ではね、やっぱり小

学校の先生を何年かやっていたでしょ。だからね、いわゆる教育というか、目線が違うんだと思うよ。今振り返ってみると。だいたいね、中学校の先生になっている人っていうのは、進学、もう一つ上の過程を経て中学校の先生になってくるわけ。で、全部専門課程でしょ。数学なら数学を教えるでしょ。だけど小学校の先生をされていたわけだから目線がまず違ったよな。

松本 そうだな。明らかに違ったな。

久米 だから、ものすごく叱り上手、教え上手、褒め上手だったんだよ。

久米 だから30分早く来て、それこそみんなを教えてくれたよね。あの時だってみんな出てきたよな。今だったら絶対反対がたくさん出るはずなのに……

松本 あの時、だれもクレーム付けずに来てたよな。

田辺 つかなかった。あれインパクトあったよ。

一同 すごいインパクトだったね。朝の試験な。

神家満 あー有名な朝練ならぬ、朝の小テストですね。

田辺 そうそう、僕あんまり成績良くなくて、そしたら「田辺こんな事じや困るぞ!だめだぞ!頑張れ!」って言われてね。それで朝、復習勉強必死にやってね、その後しばらくして「あんたは頑張り屋だな」とて誉めてくれた。

一同 そうなんだよ。そういうところがあの先生のすごいところなんだよ。褒め上手なんだよね。ほんとにそうなんだよ。

寺田 またよく見てんだよ。

久米 絶対頭ごなしに怒らない。

寺田 おれ怒られたことないな。

桑山 みんなそうですよ。

大平 大きな声も出さないしな。

松本 それで朝の試験だけ……

大平 朝の試験ていうのはね、確かクラスの掃除当番かなにかで、その班長がいるんだよ。それでその班長みたいのが、授業終わると、山口先生の所に「何々を習いました」としていくんだよな。

松本 あれ、科目はなんだっけ?

大平 英語、数学、生物も化学も…あつたような気がするな。

松本 それで一人ずつ担当決めて。

大平 今日はこんな事を習いましたって言って、その後先生が問題を作るんだよね。

松本 だから、僕は理科だったかな? の担当だったんだよね。それで講義を聴きながら書いたノートをさ、その日の帰りに先生のところに持つて行って置いてくるわけ。そうすると翌日の朝までに問題を作ってる。

寺田 あれガリ版か何かで切ってたん



山口正栄は入学前日に全員分の名札を書いた

でしょうね。ちっちやいガリ版しかないから。先生はもっと早く学校に行って作つてたんだろうな。

久米 それで我々は30分早く学校行ってな。

一同 うん。すごかった。30分早くだもんな。

桑山 8時までに行ってたんですよ。

神家満 8時までに登校ですか。しかも一年D組だけ。

大平 そうそう。それでテストをやって班長が先生の所に持つて行って。そうすると放課後までにはちゃんと採点されているんだから大したもんですよ。

神家満 いったい何人いらっしゃったんですか?

全員 50人。

神家満 50人! しかも毎日!?

一同 毎日。毎朝。(笑)

神家満 やめたいとか思われませんでしたか?

田辺 そこが偉いんだよね、山口先生は。当時我々はワンパク小僧でね。戦

争中でしょ。普通なら行かないですよ。

神家満 そうですよね。30分前に来なかつた人とかいらっしゃらないんですか？

一同 いない。いないね。

大平 遅れた人も記憶にないね。

桑山 あれ、そんなに苦痛じゃなかつたですよ。

松本 やっぱり先生の統率力、おだて、まとめ、というか。それにまんまと乗つかって・・・だね。

一同 笑

寺田 やっぱりあの先生は教育者だつたんだよね。

一同 教育者だつたね。

田辺 その魅力にわれわれは引っ張つて行かれたんだろうね。

大平 だから、参加したくなるような教え方なんですよ。一生懸命教えてくれた。復習が大事だつてこと、ほんとによく教えてくれた。

久米 難しい事じやなくて、ポイントになる部分を教えてくれたんだよね。

寺田 だからA組のクラス担任が文句

言ってな。

松本 それが学年主任だったんだよな。

一同 そうそう。

松本 結局1学期終わつてみたらね、D組の成績がダントツなわけ。他のクラスとすごい差が出ちゃつてね。

神家満 それはそうですよね。皆さんすごく勉強してるんですから。

桑山 優等生がいっぱいいたの。

大平 優等生って何点以上だつけ？

田辺 85点以上。

寺田 それがいっぱいいたんだよ。十何人いたよね。ところが他のクラスには1人とか2人とか・・・いないクラスもあつたしな。

神家満 クラスは何組あつたんですか？

久米 5クラス。ABCDEまであつたんだよ。

寺田 B組もC組も一人しかいなかつたんじゃない。ところがD組だけ十何人もいるんだもん。平均85点以上がね。

松本 それではほかのクラスの先生が怒つてね。「どうしてこんなことになるん

だ」「なんで毎朝試験やってるんだ」「ルール違反じゃないか」ってね。

桑山 そんなルールあったのかなかつたのかわからないんですけどね。

寺田 それに紙の無駄遣いじゃないかという噂もきいたよ。

一同 へえ？

久米 紙たってこんな小さな紙だよ。

寺田 とにかく、クラス替えの話まで出たよな。

神家満 本来クラス替えはないんですね。でも優秀な人が集まっちゃったから・・・。

田辺 いや、山口先生が優秀にしてくれたんだよ。

大平 あの先生だから朝のテストもできたしね。

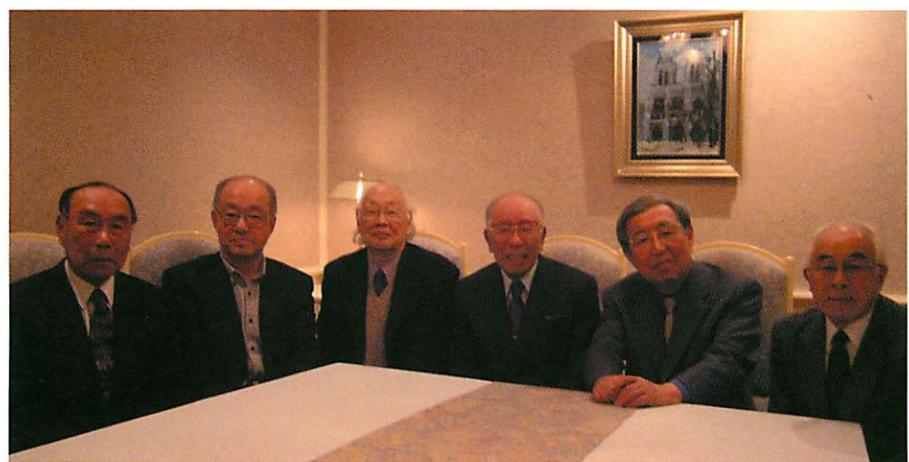
一同 先生のおかげだよ。勉強方法が身に付いたもんね。そうそう。

寺田 やっぱり先生自身も勉強していただからだよ。

一同 そうそう。

松本 勉強っていうのはどうすればいいのか知っておられたんだよね。

寺田 だいたい、先生ってのは勉強しないで怒ってばっかいいるもんね。そういう



左から寺田秀治、久米栄一、大平武司、田辺達三、松本篤二、桑山隆

もんだけどさ。山口先生はいつも勉強。

大平 先生うちの借家に住んでたから引越してきて、次の次の日落ち着いたころさ、俺ぶらっと先生どうしてるかなつて自転車で行ったんだ、日曜日。そしたら窓開いててもう勉強やってんだ。そして俺が「先生お早うございます」って言ったら「おう、入れや。お前教科書どうした」って。いやあよく勉強してたよな。

寺田 だいたい、数学の検定一回で通ったんでしょ。

田辺 そうそう、一回で。

桑山 そんなの、ないですよ。普通ではね・・・だから本当によく勉強していらっしゃったんですよ。

神家満 ところで、寺田さんは北大の時に祖父と再会しているんですよね。

寺田 そう。先生はもう忘れているだろうと思ってね、陰にいたら「おい、元気か!」って声かけてくれたんだよ。覚えててくださったんだよね。

神家満 祖父にとっては短い期間

だったとはいえ朝のテストまでやって頑張っていたクラスでしたから、きっと思い出深いものがあったんでしょうね。

久米 先生はそういう優しいところがあるんですよ。

寺田 でも結局あの朝のテストのおかげで力落ちなかつたですよ。

松本 そうそう。だから最初に持ち上げてくれるから、あとが続くんだよね。

大平 北大だってずいぶん入ったよね。クラスから。

田辺 僕が北大の先生をしてたときに、北大の学長だった先生に「僕一中時代はD組だったんですよ」といつたら、「先生D組だったんですか!!!」って言ってた。

松本 伝説のD組だったからね。北大の学長やった先生まで認めてたわけですよ。

久米 有名だったんだね。

田辺 自分ではよくわからなかつたけど、学長までそう言うんだから「ああ、すごかったんだなあ」って改めて感じま

したよ。

松本 私と大平は海軍兵学校に行つたんだけど、一中から16人入ったうち、4人がD組からだもんね。5クラス250人中で。

神家満 優秀だったんですね。

一同 だから優秀にしてくれたわけですよ。

田辺 うまく育ててくれた。やる気を起こさせてくれた。僕はそう思うね。

久米 だから、最初の教育というのは大事だよね。

田辺 ほんとに、そういう意味じゃ理想的な先生だったよね。自分が教える立場になって、やっぱり山口大先生のこと時々思い出したね。それに先生絶対「やれ!」とか強制しないんですよ。

久米 うまいんですよ。自然にやる気を起こさせる。

寺田 穏やかでゆったりとしていたね。

松本 本当に穏やかでいい方だったからね。「はい!みんなこっち向いて!」って黒板に書き出して・・・。

久米 そうそう。「みんなこっち向いて」っていうのは得意だったね。

松本 僕は強烈に覚えてるね。「はい!みんなこっち向いて」って。必ず「はい!」ってところから始まるのね。「はい!むいて!」って。

久米 あれは先生が小学校の先生をしておられたからだろうね。

大平 だから、いつも穏やかで、大きな声出したことなんかなかったよね。

桑山 先生は本当に優しい先生でしたよ。なのにやる気を出させるんですよ!

一同 そうそう。本当に上手だったね。

田辺 ここに山口正雄さんも書いてますけど（財団理事長のあいさつ財団パンフレット内より）山口塾を長年にわたってボランティアで運営して、今日医学界をはじめ多くの分野で活躍している多様で優秀な人材を輩出ってありますよね。・・・数学の山口っていってね。医学部は多かったです。山口先生に習った生徒。先生、桑園学園で教えられてたでしょ。医学部はやっぱり

なかなかストレートでは入れないから桑園学園で山口先生に教えてもらいましてっていう生徒は多かったね。そうすると「それは私の恩師だ」っていってね。随分お世話になったんですよ。

神家満 きっと多くの生徒さん達がいらっしゃると思います。私も先日、北海道内の大学訪問をさせていただいた時、「私も山口先生に教えてもらいました」という学長様に何人かお会いしました。

桑山 先生の教え子はいっぱいいますよ。

大平 本当にお世話になったよね。

神家満 私は祖父とは物理的にも離れておりましたので詳しくは分からなかったのですが、財団の仕事を手伝うようになって祖父の人となりに触れるうちに、もっと接していくればよかったのについて悔やまれます。

寺田 まあ、ちょっといいでしょ。ああいう先生はね。

久米 自分のこと考えると、小学校も

いい先生に恵まれて、2人くらいいたかな?いたんだけど山口先生はずば抜けてるね。問題にならないくらい。

一同 そうだね。しかし、よく勉強したよね。本当に勉強してた。

田辺 ところでこの財団ができたのは山口先生の遺言とか、あなたのお父さんの正雄さんの発想なんですか?

神家満 祖父は教育に対しては非常に熱心でしたので将来財団なり、苦学生を援助したいということで貯金をしていたようなんです。でもなかなか形にするというのは大変なことで、その志を父が受け継いで設立したという経緯です。

田辺 じゃあもう、先生は生前からそういう奨学金的なものをお考えだったんですね。

神家満 はい。

寺田・久米 いやいや、なかなかできないことですよ。

大平 大したもんだね。

桑山 普通はできないですね。

久米 先生自身僕らを受け持っている

ころ、苦学生だったからね。自分も大學行かなきゃならない、教えなきゃならない、大変だったと思うよ。

松本 だから普通の学校に行く余力がないから全部検定検定で上がってたんでしょ。

寺田 偉いよね。

大平・桑山 先生は本当に偉い方ですよ。

田辺 そうやって苦労なさったから。奨学金のことも考えられたんでしょうね。

松本 やっぱり先生は最後の最後まで教育者だったということだよね。そして財団も設立されて25周年ですからね。

久米 25年ですか。すごいですね。

寺田 良い奨学生が集まるといいですね。

一同 財団も頑張ってください。(拍手)

神家満 はい。今日皆様から伺った教育者としての山口正栄が生徒、学生に何を期待してきたのかの思いが伝わってくる気がします。今後とも北海道の地で、本当に勉強したい志を持つより多くの学生を援助できるように財団としても頑張りますので、ご支援よろしくお願い申し上げます。今日は本当にありがとうございました。◆



山口正栄先生を思う

札幌医科大学 名誉教授

黒川一郎

山口正栄先生の思い出を書くように、山口正栄記念奨学財団からご依頼されました。山口正栄先生は忘れ得ざる恩師であります。小学校の恩師や中学の恩師は一生を通じ人間を基本的に形成する大事な方であると改めて思います。

札幌第一中学校の入試は当時小学区制であり、札幌一中と私の母校幌南小学校が至近だったせいか、比較的多人数が入学を許されました。一年学年男女各一クラス60名の小さい小学校でしたが、十人前後の生徒が一中に入学しました。しかし、クラスメートの半数は家庭の事情から、高等小学校をへて実社会に入る道を進みました。担任の北郷正治先生は、われわれが一中に合格した直後、合格した十人足らずの生徒を集め、沈鬱な表情で

次のように我々に述べられました。「おまえたちは確かに成績がよいから合格した、先生はそれはうれしい。しかし、家庭の事情で高等小学校に行く友達が半分くらい居るのだ、おまえたちは制帽を誇らしげにかぶって歩きたいだろう、しかし、高等小学校にいったやつはおまえたちが制帽をかぶってそこらを走っているときどういう気持ちを抱くか考えてみてくれ、かれらとすれちがつたら、帽子を脱いで、さりげなく歩いてくれ」と。エリート中学と我人と共に許す学校に入学させた喜びをあらわにしつつも、この気配りは我々生徒にはおもくひびきました。

そんな昭和17年3月をへて4月北海道庁立札幌第一中学校に入学した自分がもとめる教師像は、小学校と中学は学問のレベルがちがうし、名門度も

一中と札幌で当時一番新しく出来た小学校出身（昭和11年山鼻小学校から分校）で、伝統もない、いわば問題にならない。小学校時のささやかな恩師像を抱いているだけの自分は、もっとも学問的に中学らしい授業をしてほしい。同時に小学校のときの、弱い者、貧しい者にも愛情を注がれた恩師像と共に通した側面を持った先生に習いたいという気持ちで入学しました。そして父をはじめ親戚の何人かの伯父が語ってくれた嘗て学んだ札幌一中像を心に抱いて入学したのでした。

入学してまず驚いたことは、同級生が秀才揃いで、これまで如何に井戸の蛙であったか、よくまあこんなできる人がこれでも中学生かとおもう級友がたくさんいることにおどろきました。制帽をほこらしげにかぶるなんてことは脳の中から消し飛びました。

山口正栄先生が担任をされているD組に入りました。山口先生の教育方針は、きわめて懇切丁寧なものでした。

人柄もさることながら、一人一人の学力の向上をめざしたものであります。そしてクラスで何番と言うよりも、当時同学年の二五〇人を優に超える全学年のなかで何位かという考え方で、私ども一人一人を評価・教育して下さったと思います。生徒の個人的努力を全学年的視野で評価される方なのだなあ・・と思ったこともしばしばでした。私でも全学レベルで地理が最優秀な成績であると・・「一等賞！」と先生から褒められたことがあります、それが折つにけ無限の励みになったよい思い出を持っています。先生が私どもの一年生の後半、眼前からさらられたあと、先生は数学をさらにさらに極めるべく、もう一つ上、もう一つ上と、一歩一歩、超人的な努力をふまれたのですね。

私どもが大学生活さらに実社会にてからも、山口先生は大学におられてさらに高いレベルを目指して勉強されており、研究をさらにさらに深く続けておられるということを風の便りに聞いて励

まされたものでした。その想像は中学生の時の学期末の試験監督時の思い出にも繋がりました。先生は監督中も英文?と思われる文献をわき目も振らず黙読され、その威厳に、カンニングどころではない雰囲気で試験をうけたものでした。しかし秀才を多く輩出したと自称・他称されたDクラスではありましたが、成績がよいからというのではなく、体格に秀でている、力(リキ)がある、他教室のモサと十分に腕力的に対応できる、冗談が上手である、絵がうまい、書道に秀でている、走るのが速い、人を纏めるのが上手い、(この人は高校の運動部の監督をつとめ、今でもクラス会の万年幹事)等々一芸に秀でている生徒はそれなりに、一目おかれた存在でした。

また三学年時(昭和19年度)は、一年を通じて勤労動員にあけれましたが、12月~3月北見の深山に分け入り、苦楽と共にした面々がペンケ会というその苦勞した土地の名を冠したク

ラス会を今もって開いており、特別の友情を暖めているのも、山口先生に育てられた何かが、作動しているのだと信じています。

後年山口先生のご子息が、受験生に対応された教育事業に携わっておられる事を聞きました。さらに山口先生が後年奨学財團を設立されたことも知りました。決して御自身の人生を自分一人の栄光の物語にとどめず、後進に無限の励ましと支えをしてあげるにふさわしい物心両面の装置をつくり、山口先生のご子息・お孫さんがこれを支持発展させるという、これ以上ないほどの立派な組織を作られたことは快挙であります。山口正栄先生もさぞかし喜んでおられることでしょう。教えを受けた人間の一人として、このような拙文を書きせて頂き、たいへん光栄であります。山口正栄記念奨学財團が若い人々への励ましとなり、さらに事業が一層発展されることをこころから祈念するものです。◆

● 親子の木（美瑛町）



● 夕張国道
R452より



25周年をお祝いして

札幌百合の会病院 副院長

藤田 伊久雄

山口正栄記念奨学財団25周年、御目出度う御座います。此処に至るまでは、現理事長山口正男様の長年に渉るご尽力の賜物であると、心より敬服致します。

此処までも山口理事長を駆り立てたものは、思うに正栄先生の熱い想いではなかつたかと思われます。同じことは、初代山口コウ理事長にとっても、同じ想いに後押しされていた事と推察致します。更に、この度の公益財団法人への移行も熱い想いの延長上にあると考えます。

さて、私事ですが、小生如き者が、財団発足時より、評議員として参加させて頂いたのは、山口正栄先生の教えを受けたからのみでは無いことを、当初より推察致しておりました。

それ故、他の方々とは少し違った関

係であったと思います。私は、昭和18年4月、南8条西18丁目の井上塾で、初めて山口先生の講義を受けました。それから北大入学後、昭和31年医学部編入のため1年間、菊水のお宅へ通いました。更に、私は8人兄弟の長男で、以後弟3人、妹1人が菊水のお宅へ通い教えを受けました。

私は江別高校卒で、その時まで、私の家と、山口コウ様のご実家は同じ町内であり、その上、父が初めて事業を行った小さな会社と殆ど隣り合わせでした。

その様なこともあり、山口先生ご夫妻と私の両親とのお付き合いが始まり、特に57歳で亡くなった父と、山口先生とは、お互いに肝胆相照らす仲であったと思います。

恐らく、私は藤田家の代表として参

加させて戴いたのではないかと思っております。此の事に付いては、山口現理事長も詳しくはご存知無いでしょう。

私の母も亡くなつて15年近くに成りますが、その時は少しでもお役に立てばと、喜んでおりました。

そんな事とは関係なく、山口先生の下での一年間は、以後の私に非常に多くの影響を与えて頂きました。時々思うことは、もせめて高1からでも教えを受けていたら医者に成らなくて良かったかも知れることです。しかし、何時も、そんな事を言おう物なら、医者に成ったからこそ野垂れ死にしなくて済んだと、毎度言われております。

私自身は一見真面目のように見えますが、全くの気分屋で厭き易く、根気も在りませんでした。以後色々大きく躊躇ことありました時、山口先生の教える確実に一つ宛つ、考え方解决していく手法は、短い間ですが研究した時、病気の人を前にした時最良の方法であることを自覚されます。

現在もなお同じ職業を続けており、初心忘れずで行きたいと思っております。それでも気分屋ですので皆様のお顔を拝見した時は、気を引き締める機会となりました。まことに有り難う御座いました。

これからも、制度の仕組みの上で予想外の障害が立ちはだかり、皆様方の熱意を削ぐことも多いと思われますが、山口理事長を側で支える（株）ジャパンテクニカルソフトウェアの皆様方のご尽力と、聰明な理事の方々の御力により益々財團の基盤がより強固の物となり、歴史の無い北海道の歴史を作る学生を輩出する基となり、末永く続くことを祈念し、お祝いの言葉とさせて頂きます。◆



ムーランルージュ (ひまわり)

山口正榮先生と私

(株)リクルート 元RODトレーナー

松本 篤二

私、松本篤二是昭和17年4月に旧制札幌一中に入学した。1年D組に所属した私のクラス担任が山口正榮先生であった。これが私と山口正榮先生とのめぐりあいである。

おそらく私は、山口塾のあまたいた塾生の中で、最も長い間お世話になつた人間ではなかろうかと自負している。それはこの時（昭和17年）から始まって、私が北大の助手をやめる前年（昭和30年）まで、13年間にわたって山口先生の薫陶をいただき続けたからである。

山口塾での勉強は楽しかった。山口先生の教え方は巧みである。問題ができると「ホラ、出来たじゃないか」といわれる。頑張ろうという気力が湧いてくるのである。

因みに1年D組と山口正榮先生との関係は、この年の夏までで終わってし

まう。山口先生が高検（旧制高等学校卒業検定試験）にパスされて、秋からは北大の数学科に学生として入学してしまわれるからである。そしてそれ以後は、純粋の山口塾での師弟関係だけが続いていくことになる。

この時期は太平洋戦争の初期である。そんな中でわれわれ中学生も、勤労動員に次ぐ勤労動員となり、昭和19年の暮れからは、北見紋別の山奥のベンケという名の沢の奥で、材木を切り出す作業に動員される生活も送った。殆ど中学生としての本来の勉強をする時間はなかった。そんな中で私は、海軍兵学校を志望する。

山口塾の同級生、三井も大平も、一緒に海軍兵学校を受験することとなる。

山口塾の力は大きかった。三人が三人とも、全国の受験倍率20数倍の

難関を突破して合格するのである。昭和20年春のことであった。

しかし、その年、昭和20年8月、日本は無条件降伏。われわれも、もとの札幌一中に復学することになる。だが復学はしても、私の気持ちはおさまらなかつた。あこがれにあこがれた海軍、そこに身を置いて、最高の充実感と使命感にひたつたと思ったら、たったの5ヶ月で敗戦、一挙に充実の座から転げ落ちてしまった。悔しい、情けない、そういう思ってみてもどうにもならないことが判っていても、自分の内心は納得しない。いわゆるグレた状態である。札幌一中には行かず、大平と三井と3人で集まつてはグレていた。

見るに見かねた父から、「そんなことをしているのなら、学校など辞めてしまえ。やめて日の丸の仕事を手伝え」と厳しく叱られました。日の丸とは、日の丸産業社という名の松本家の家業である。しかし自分で自分を御しきれなくなっている私には、どうする力もなかつた。

こんな状態から私を救い出してくれたのは「山口塾」であった。グレにグレで苦しみぬいたある日、ふと考えたのである。山口塾に通つて数学をじっくり勉強してみてはどうだろう。新しい、今まで勉強したことのない勉強をしたら、新しい気持と道が開けるのではないだろうか。三井や大平に話をしたら、一つやってみるか、ということになった。山口先生にご相談したら、引き受けてやろうということになったのである。

この話の根底には、当時私もそこまで意識してはいなかったのだが、明らかに山口正榮先生という方が私の中に根を下ろしている、絶対の信頼感があったのだとおもう。この先生について新しい勉強をすることによって、何かが開ける、先生なら必ず何かを学ばせて下さる、という期待感と信頼感である。

そして再び、大平と三井と私と3人一緒の「山口塾」通いが始まった。この時山口先生が持ち出して来られたのが微分積分学であった。微分積分

学というのは、旧制高等学校に進んでから初めて関わる、神聖なまた高度な数学の分野だということであった。それを今から始めさせようとする山口先生に、一しおの緊張感と、それを学ぶことの興奮を抱いたのである。

山口先生が最初に選んで下さったテキストは、東大教授掛谷宗一先生の「高等数学提要」という本であった。これは掛谷先生が旧制高等学校のテキスト用に書かれた本である。

次に選んで下さったのが、同じ掛谷先生がお書きになった「微分学」「積分学」これは数学に関する「学術書」なのである。生まれて初めて触れる「集合」という概念から始まって、壯麗な理論が完璧に組み立てられているものであった。

しかし勉強の方は、それどころでなく大変であった。山口塾での私たちの勉強はゼミナール形式であった。予定した範囲を予め勉強てきて、それを一人ひとりが黒板の前で説明するのである。

それをじっと聞いていて、先生がすかさず言われる、「それは何故だ」。何故だといわれて懸命に説明しかけると、「今言ったことは、それは何故なのだ」。いえばいうほどどこまでも「それは何故だ」が迫ってくる。

後になって判つてくるのだが、要は書物に書いてある文章には、絶えず論理の飛躍がある。そこをどう補って、論理を完璧にすることが出来るかを問われるのである。だから先生の絶えず言われる言葉は「行間を読め」であった。そして数学の勉強を通して、論理的に物事を考える訓練を徹底的に植えつけて下さったのである。

「何故だ、何故だ」にもみくちゃになっている間に、いつの間にか私自身のグレた気持は、跡形もなく何処かにけし飛んでしまっていた。

昭和21年に私は、北大予科類に進学する。しかし山口塾通いはこの後まだまだ続いた。「微分学」「積分学」を読み終わると次には「集合論」「束論」

「群論」など様々な書物が登場した。数学という学問の論理的魅力にひきつけられ、私にとっては酔うような体験であった。

昭和24年には、物理学科を選ぶ。それでも、物理学科に籍を置きながら、相変わらず山口塾で数学も続ける私であった。この頃になると、「何故だ、何故だ」で追いまくられた勉強の中から、次第に私自身の中に、そのような論理的態度で物事を考えたり、処理したりする姿勢が出来上がっていった。

日常の生活に携わる私自身の基本の態度として、論理に則って体系的に物事を構築していく姿勢が確立されていった。これは私の人格の基本に関わる姿勢の構築であったと思っている。理学部の学生生活を送りながら、私は論理性と体系の構築力にかけては誰にも負けないものを得ていた。それは山口正榮先生が私の中に呼び覚まして下さったものである。いうなれば先生は、私の生き方そのものを作ってくれさ

ったということが出来る。私の山口正榮先生への感謝は、そのような次元のことであった。

この頃になると塾での勉強にも比較的ゆとりが出来てきて、山口先生との間にも数学以外の会話が入ってくるようになる。先生は囲碁がお好きであった。日本棋院の検定に応募して、四段の試験に挑戦されていた。何によらず考えることがお好きで、また大変な集中力で、何時間でも考え続けられるようであった。

昭和27年に北大理学部を卒業。昭和28年に理学部の助手になった。この頃になると山口塾通いも様相が変ってくる。応用電気研究所の助教授でいらしたと思うが、山口塾も先生のお家ではなく応電研の先生のお部屋に理学部から私が出かけていくことが多くなった。

そのうち面白いことが起きた。先生がある時いわれるには、「今度は松本が、私に物理を教えてくれよ」、ということに

なったのである。「やってみましょうか」ということで、早速テキストを選んで始めた。しかしこれは残念なことに、3、4ヶ月続いたところで終らざるを得なくなってしまった。それは理論物理学教室解体という大問題があり、私自身が大学での学究生活を辞める決意を固めることとなつたからである。昭和30年の秋のことである。

ついに私は決意する、もう一度ゼロからやり直そうと。松本家では家業として「日の丸産業社」という企業を経営している。父が社長で、私の兄がその後を継ぐべく二人でやっている。早くから篤二も一緒に協力しないかという声は聞かれていた。物理学とも素粒子論とも数学とも、全く無縁の世界に私は飛び込む決意をしたのである。しかしこの方針転換をお話したとき、先生は本当に心から心配して下さって、私の置かれた状況を理解するべく、様々な質問やご意見を話して下さった。

ところが山口塾の卒業生に、赤塚

茂昭君（山口正栄記念奨学財団初代評議員）という人がいる。この人は札幌の狸小路に（株）赤塚商店という学生服専門の商社があり、そこの御曹司である。早い頃から山口塾に通っていたが、中学の途中で社長であるご尊父を亡くした。そして中学から上への進学は放棄して、札幌一中を卒業と同時に、（株）赤塚商店の経営を継いだのである。中学卒業は昭和22年であるから、昭和29年のこの時期には赤塚君は、企業歴7年の少壮社長だったのである。その赤塚君のところに、ある日山口正栄先生が来られたというのである。そして松本が理学部の助手を辞めて、家業に入るというのだが、そんなことが出来るものなのか、どう思うかと訊かれたのである。

かなり後になって、赤塚君からこのことを聞かせてもらったとき、先生がわざわざ時間を割いて、意見を求めに行つてくださったということに、私は感動した。そこまで先生が私のことを心

配してくださっていた。先生の真情に胸をえぐられる思いであった。これが、私の「山口塾卒業」である。

この後、昭和32年に日の丸産業社に入社した私は、翌33年、三井惟靖の妹佳子と結婚する。男の子を二人授かった。妻の佳子も三井の妹であるだけに、山口正榮先生のことは好いだけ承知している。おまけに彼女が北大在学時代、山口先生の講義も聞いていた。山口先生への尊敬は、我が家の中で完全にベクトルは揃っていた。

私にとっては、時候の変わり目に時折先生のお宅をお訪ねして、懐旧談にふけるのが何よりの楽しみであった。そんなことから、二人の息子たちも、山口塾のお世話になることになる。二世の塾生である。

しかし二男が山口塾のお世話になっているとき、山口先生が病に倒れられる。がんであった。ところがである、そのような中で先生は私の二男明郎を、北大病院の病室にまで呼んで、勉強を見て

くださるのである。ありがたいやら申し訳ないやら、何とお礼を申し上げてよいのか判らない気持ちであった。私の二男松本明郎は、かくて山口塾の最後の塾生なのである。

昭和58年4月、山口正榮先生は亡くなられた。この時私自身は、またまた人生の大転換期を迎えていた。そのため半月のスケジュールがすでに組まれていた。先生のお葬式には、佳子と二男明郎が私の代わりに参列してくれた。

全道にわたっての挨拶廻りから開放されたとき、私は何はさておいても山口先生のお宅へ伺った。そして一個の骨箱に変ってしまった先生と、しばしの会話をさせていただいた。仏壇に瞑目する私に、先生は静かな目を向けてくださっていた。そして、「何故だ、それは何故だ」という声が私の耳でなっていた。山口正榮先生という方は、私の生き方そのものを変えて下さった方なのである。◆



● シュウバ(口海)



●天都山(網走市)



3

山口正栄記念奨学財団のこれから

奨学生OBとして

公立はこだて未来大学 准教授(元奨学生)

奥野 拓

私は現在、財団の評議員を務めていますが、大学院生時代は皆さんと同じ奨学生として財団より奨学金を給付していただいていました。今から20年近く前のことです。

当時、私の所属していた研究室では、現在は複雑系工学と呼ばれている新しい領域の研究テーマに取り組んでいました。専門領域の最先端の研究を行うためには、研究室や図書館にある書籍では不十分なため、最新の専門書や、まだ翻訳されていない洋書を自力で入手する必要がありました。当時は現在のようにインターネットで世界中の本が簡単に入手できるような環境ではありませんでした。実際に最新の専門書を手に取って見られる機会は、学会発表のために上京したときに洋書を大量に扱っている大型書店に立ち寄

るか、国際学会の会場での展示販売くらいのものでした。そのような折に、偶然良書を発見したときなどは、奨学金という自由に使えるお金があるということが、とても心強かったことを思い出します。

その後、研究の理論検証に必要なコンピュータシミュレーションのために、たくさんのプログラムを書いているうちに、ソフトウェアそのものに興味が移り、大学院修了後にはソフトウェア開発の仕事に就きました。後に、IT人材育成のプロジェクトがきっかけで大学の教員になり、現在に至ります。

これまでにソフトウェア開発や情報系の学生の指導に携わってきましたが、その現場での経験から奨学生の皆さんにアドバイスしたいと思います。

奨学生の皆さんにとって一番重要な

ことは学業であり、学生という立場で将来の目標に向かって技術や知識を修得することです。しかし、財団のバックアップを受けている奨学生の皆さんには、ぜひもう一步踏み出してほしいと考えています。何か技術的に興味の持てるテーマを探して、それについて自力でいろいろ調べ、最新の技術を習得してください。例えば、自分のWebサイトを作つてみたい、ロボットを動かしてみたい、ゲームプログラミングをしてみたいなど、きっかけは何でも構いません。幸い昔と違って、今はほとんどの技術情報がインターネット経由で簡単に入手できます。やる気さえあれば、ほとんどコストをかけずにプロと同レベルの最新技術を習得するチャンスが転がっているのです。

そして、機会があれば学生向けの技術イベントに参加してください。プログラミングコンテスト、ロボットコンテストなど、調べてみると意外とたくさんのイベントがあり、それほど敷居の高いもの

ではないことがわかるはずです。私の周りでもそのようなイベントへの参加を経験している学生が何人もいますが、得られたものは皆期待以上と言います。そして、ただ単に技術を身につけたというだけでなく、人間としての成長もはつきりと感じられます。厳しい制約の下で、チームで苦労しながら何か新しいものをつくり上げるという活動は、社会では普通に行われていることですが、そのような経験を学生のうちにすることで、学生生活に対する意識も変わってくるようです。

学生時代の課外活動として、部活動やサークル活動、旅行なども有意義だと思いますが、それだけでなく、ぜひ学生のうちに「特技」と呼べるような技術を身につけ、それを活用する経験をしてください。そのような特技や経験が皆さんの大好きな自信につながり、周りからも他の大多数の学生とは違う一回り大きな人間に見られることでしょう。

私をはじめとして、財団のスタッフ、

そして財團を支える企業にも、様々な分野の専門家が揃っています。皆さん

が望めば、資金面だけではなく、様々な形でサポートできると考えています。ぜひ財團を皆さんの将来のために活用してください。◆



● 布礼別（富良野）



奨学生へのメッセージ

北海道情報大学 前学長

嘉数 侑昇

1862年に上梓された「ウォールデン・森の生活」は、28歳のD.ソローがコノードの森の中、ウォールデン湖のほとりで2年余にわたって仙人生活をしたのをベースとしたもので、自然派のバイブルとして知られる。

この中で、彼はいう。近くの町に出るために必要な汽車賃を稼ぐためには、どこかの工場で一日中あくせくと働くなくてはならない。そしてその翌日汽車に乗って町に出る。しかしそこで働く代わりに、その日に歩いて出発したほうが結局は町に早く着けると。当時の汽車のスピードの如何はここでは問わない。

要は、あれやこれやの文明の利便さを手にするために、それらの表象としてのお金と引き換えに、自分自身の時間を浪費しているのではないのかと。モノに過剰に囲まれた今日、彼の主張には

多くの納得させられるものがある。

しかし、例えば彼はハーバード大学を卒業している事実がある。大学卒業のための表象としてのお金なしでどうやって大学を卒業できたのだろうか。そんなことはあり得ないはずだ。現に彼は授業料不払いゆえに大学とトラブルを起こしている。ソローには悪いが、お金でしか購うことのできないような、それこそ貴重な時間というものがある。

ところで、時間はソローの言うようにそう単純なものでもない。俗にいう時というのも考えなければならない。ソローは惜しいかな45歳という壮年で逝ったが、もしも彼が体力の衰えを自覚する年代・時になったら「汽車は便利だぞ」と賜ったに違いない。

春夏秋冬、万物は流転するのが自然界の大原則であるが、限りある命を

持つ我々、人類としての個人ベースの時の流れは、この大原則に沿わない。人間界の時間は、時、カッコよく言えば、秋ともいるべきもので、人生はそれこそ青春、朱夏、白秋、玄冬の一回りの時のみだ。

庭いじりが趣味の筆者は、南国沖縄でとれたがゆえか、のんびりとしすぎるくらいがある。たとえば、野菜。近所の人から、札幌ではカッコーが鳴くころが種播きの適期ですよと何度も教えられたことか。何時でも種まきできる沖縄の癖が抜けず、毎年、1ヶ月遅れの種まき行事が敢行されることになる。結果として満足に収穫できたことは皆無だ。北国の自然はかくのごとく厳しい。人生もかくのごとし。

人生に於いて、まさにその時に、よく耕し、準備怠りなく、まさにその時に種播きし、暑さの夏に激しく成長し、豊かな麦秋を迎え、静かな玄冬を迎えることが、理想的な時の刻み方程式。

耕すべき時に耕さず、種播くときに

播かなかつた、どうなるであろうか。

私は知っている。耕したくとも耕す土地もなく、播きたくとも播くべき種を持たない人々がたくさんいることを。大事な時期である春に、土地と種を手に入れるためのお金を稼ぐために、セッセと時間を売らざるを得ない人々がいることも。たとえ土地を手に入れたとしても、種購入のための資金稼ぎに、時間を使ってしまい、種播きの適期を失してしまう人々が沢山存在することも。

私は、長年にわたって大学に教員として勤務し、最後は学長職にあった。実を言うと、最後の2年は、これまで自分がいかに世間知らずに生きて来たかを、いやでも認識せざるを得ない経験をした。それは、学長として、学生の保護者（いやな言葉である。まるで学生が幼稚園生みたいではないか）からの授業料の延納願いや退学願いの最終判断者としての経験である。

その申請件数の多さ、保護者の病気、事業の衰退などなど、延納、中退理由

の多様さから保護者の苦しい家計、これを苦にして、アルバイトに励まさるを得ない学生達。本来ならば、自分自身に種播くべきこの時に、それ以外に時を費やさざるを得ない学生の数がなんと多いことか。多分それ以前に、土地としての大学などの学びの場にさえ参画できない多くの心ある若者たちの影の数々。

ここで、BRICs、ブラジルの航空技術大学：ITAの卒業生、42歳の物静かな紳士でもあり、古風な侍の雰囲気を漂わせるスタンリー福山氏物語を紹介しよう。

氏は日系2世。14歳の時、唯一の稼ぎ手であった父親を亡くし、ポルトガル語を話せない母親（仕事に就けない）を含めて一家5人を彼が行商で支えた。経緯は省くが、彼は、ITAの奨学金を得て、休みなし、一日16時間の猛勉強を5年間（因みにITAは5年制、全寮制）継続し、人生とは何だろう（彼しみじみ曰く）と思うほど、すべての時間を勉強にあててきたとのこと。これが

彼の種蒔きの時で、彼は大いなる種播きをしたわけだ。

結果、今や7ヶ国語に堪能で源氏物語を語り、機械工学、応用化学、金融工学、情報工学のエキスパート。フォードのIT担当部門長、ブリュッセルの保険会社の重役を経験し、ブラジルの化学工業、IT企業の社長を務めるばかりではなく、その人間性にも惚れ惚れするものを持つ。

学長として、学生に福山氏を感じてもらうべく、大学で講演してもらった。彼は講演でわが国では死語となってしまった「苦学」「謝恩」にも言及した。どれほどの学生が彼を感じたのか。

肝心な話しさはここからである。

講演後、彼に講演謝礼を手渡した。それを伏し拝んで彼いわく。

「有り難く頂戴させていただきます」。そしてうれしそうににこにこしてつぶやく。

「これを大学のOB会に寄付させていただきます、よかったです。」と。何を言っているのかと思った。

「なに?」

「これ臨時収入ですから、ブラジルの大学のOB会に寄付させてもらうんですよ。ありがとうございます。」と嬉しそう。

「いや、僕らは、一番困っていた時に奨学金で勉強させてもらったから、卒業したら、みんな競い合って、OB会に少しでも多く寄付するのが楽しみなんですよ。」

「それは恩返し?」

「恩返しというほどでもないんですけど。」

「卒業生は、就職すると同時に、みんなそうするんですよ。これが集まってまた奨学基金となって、勉強したい学生の役に立つんです。」

「また、僕らの目標はOBを超えること、これですよ。強力なOB会があって、情報交換や、協同して起業する、大学と連携するなど、なかなか楽しいですよ。世界中に散らばっていますからね。」

参りました。ノーブレス・オブリージュ、武士道精神ここに極まる。この話を傍証したい。

1900年代の初頭、ブラジルでは飛行機の父として知られるサントス・ドゥモンは「航空機産業などを中心にブラジルを真に独立させよう、そのためには大学を作り有能な人材を育成するしかない。」と主張した。

これを受けて1945年開学したのが航空技術大学：ITAである。卒業生を世に送り出してわずか60年にしかならない。それがいまや、世界ランキングでは南米トップ、東大をも抜く。政界、財界、教育界、産業界に多くの逸材を出し今日のブラジルの隆盛を支える。世界第3位の航空機メーカー：エンブラム社、メタノールエンジン、バイオなどITAは多くの産業を創出し、その根幹を支える数多くのスタンリー福山氏を生みだしている。

かつての福山氏のように、種蒔きの向学の志を持つもののそれがかなわない者にとって、奨学金は、学問する時間と、学問する時を与えてくれる。

特に人生における時というものは自

然での春夏秋冬のように廻り回るものではなく、まさにその時、一回きりしかないのだから、この時を捕まえ損なうともう取り返しがつかない。山口正栄奨学生はこの時を、勉学に打ち込む時間を、がっしりと捕まえたことになる。しかしそく考えてもらいたい。奨学金は、天から自然に降ってくる雨のようでもなく、それなりに多大の自己投資をしたうえにまさに偶然に当選した宝くじとも訳が違う。あなたに時と時間を与えるべく、財団を設立し、維持し続け、見返りを求めない全く善意に基づく寄付者のお金そのものである。寄付者もソローのように自分の時間を犠牲にしてその金を用意したのに相違ない。最後にあなたに期待する。

まずは、山口正栄奨学生として選良されたことへの誇りを持つべし。それにはしっかりと学問をして頭も心も鍛えること以外はない。さらに例えばOB会を作り、その活動を通して選ばれた者同士の仲間意識を醸成してほしい。そして、

世に出た後には、福山氏のように、山口奨学財団にあなたも寄付し得るような高貴な精神とステータスを持った人物に育ってもらいたい。結果として、これまでのあなた同様に困っているはずの次代の多くのあなたに、種まきの時、時間を与えることになる。

時間経過とともに、多くの山口奨学生スタンリー福山氏が出現すれば、ブラジルに真の大学をと主張し、かつ、これが実現されたように、山口正栄奨学財団：山口正雄理事長の目指す北海道ソフトランドの実現もより早く具現化するはずだ。サントス・ドゥモンの夢が実現したように。

再度、本記念誌に掲載されている一年D組の懐古談などから推測される山口先生の人となりに思いを致し、先生の思いを山口正栄奨学財団として実現された現理事長の情熱を感じてもらいたい。かつての一年D組の生徒がそうであったように、あなたは期待され、しっかりと支えられているのだ。◆



北海道の冬は長く、春の訪れとなる5月の頃、
桜・梅・桃の花が一斉に咲き始めます。
桜といえばソメイヨシノですが、北海道では八重桜・山桜が
沢山の花びらをまとめて暖かな風をはこんできます。



哲学の木（美瑛町）：畑の真ん中に1本大きく傾いた木があり、首をかしげて何か考え方をしているように見えることから「哲学の木」と呼ばれている。



親子の木（美瑛町）：3本のかわいらしい木が、丘の上に仲良く寄り添って立つ様子がまるで親子のように見えることから名付けられた。冬の厳しい寒さを耐えられるよう、真ん中の小さなカシワの木が、両サイドの大きな木に守られているようで微笑ましい。



彩りの畑、ファーム富田（中富良野町）：別名虹色の畑とも言われている。ラベンダー、スイセン、ムスカリ、チューリップ、ポピー、キンギョソウ、サルビア、クレオメ、コスモスなど、季節によってさまざまな花を見ることができる。



オンヌトー（十勝管内・足寄町）：北海道足寄郡足寄町東部にある湖。

雌阿寒岳（釧路市阿寒町）：標高1,499mの活火山、豊かな森が広がり、数多くの動植物が暮らし四季折々の美しさを見せてくれる。

雄阿寒岳（釧路市阿寒町）：標高1,371m。華やかな雌阿寒岳とは対照的に、静かに威厳を持って佇む。



摩周湖（釧路管内・弟子屈町）：日本一の透明度で知られ、その碧碧の湖水を湛え、霧に覆われることの多い姿は、“神秘の摩周湖”とも称されている。



屈斜路湖（釧路管内・弟子屈町）：日本一の屈斜路湖カルデラの中に横たわる屈斜路湖は、周囲57キロ、最深117.5メートルで、国内では6番目に大きな湖。さらに緑豊かな島は、周囲12キロ、面積5.7平方キロで、淡水湖内としては、日本一大きな無人島。また、冬期全面結氷する淡水湖でも日本一であり、湖内に発生する御神渡り現象は、延々10キロにもおよぶ日本一のスケールである。



水沢ダム（美瑛町）：1962年に完成したダム。ダムの湖岸から眺める十勝岳連峰の風景は美しく、湖の周辺には全長1076メートルの遊歩道がある。



ベンケトウ・パンケトウ（釧路市阿寒町）：大樹海の中に、ベンケトウ、ベンケトウの“双湖”が望める。この湖は雄阿寒岳の噴火により堰き止められてできたもので、ベンケトウ、ベンケトウは北海道の形をしていることで有名。



天都山（網走市）：「天の都にのほるような心地」ということから名付けられた、標高207メートルの天都山。国の名勝にも指定されている。



シュエバロ湖（大夕張ダム・夕張市南部青葉町）：石狩川水系の夕張川上流に建設された大夕張ダムによって作られた人造湖。シュエバロの語源はアイヌ語の「夕張川本流」という意味。



ソメイヨシノ（東京都世田谷区砧公園）：日本の花を代表する桜。その最も有名な品種がソメイヨシノである。残念ながら北海道では気候にあわないのか見ることはできないが、この花が満開となる春という季節は、新しいスタートを迎える時となることで人々の心を特別に高揚させるのかもしれない。

©2009 Yamaguchi Masae Memorial Scholarship Foundation

平成21年9月28日発行

発行：山口正栄記念奨学財団

写真：山口 正雄

資料提供：桑山 隆（P28集合写真、P31名札）

駒木根 洋一（P42夕張国道、P56布礼別）

神家満 由紀（P23ライラック、P63さくら）

記念誌を作ることになり、北海道の写真を一枚一枚選んでいた時、「美しい自然にあふれた北海道をこれからもずっと大切に守っていきたい」と、思いが強められました。そのためにも、財団は奨学生をしっかり育てていこうと思います。

本誌発行にあたり、多くの方々からご支援とご協力を頂戴いたしました。ご寄稿くださいました先生方をはじめ、資料を提供してくださいました桑山様、素晴らしいデザインに仕上げてくださいました中村創様、立派な本という形にしてくださいました株式会社アルファ・ドゥーの皆様に心より感謝申し上げます。